

食の安全 「基本のお話」

第70回

ネオニコチノイド系農薬



ネオニコチノイド系農薬は「子どもの脳に有害」という記事を読みました。

1. そのような科学的な証拠はありません。

○動物実験では、こうした作用は認められていません。

農薬等の安全性評価は、国際的に合意されたテストガイドラインによる動物実験の結果が基本になります。

記事で紹介されている実験は、培養細胞（生体外で培養されている細胞）による実験で、その結果をそのまま人間への影響に当てはめることはできません。実際の食べものから農薬を摂取する場合は、どれくらい消化管から吸収されるか、吸収された後にどのように代謝（別な物質に変化すること）されるかなどの影響を受けます。

○昆虫の神経にはよく効きますが、ヒトの神経にはほとんど効きません。

ネオニコチノイド系農薬は、神経細胞の受容体（神経伝達物質が結合する部位）に作用します。受容体の親和性（くつきやすさ）はヒトと昆虫では大きく異なり、昆虫のほうが80倍〜数千倍も親和性が高いことが知られています。

ネオニコチノイドは、ニコチンに似た成分（ニコチノイド）をベースにした物質です。昔、天然物であるニコチンが殺虫剤として使われていましたが、人間や家畜への毒性が高いため、使われなくなりました。そこで、人間や家畜への影響が少なく、昆虫に対して選択的に神経毒性を発揮する新しい農薬としてネオニコチノイド系農薬が開発されました。

2. 稲作に欠かせない農薬



ネオニコチノイド系農薬は、ヒトをはじめとする脊椎動物への安全性が高く、殺虫効果も高いことから広く使われています。

3. コープ・ラボ（商品検査センター）で検査しています。

コープ・ラボの農薬検査機器は、一斉に300項目以上の農薬が測定可能で、その項目に、ネオニコチノイド系農薬も含まれています。ネオニコチノイド系農薬は、検出されないか、検出されても残留基準よりも大幅に低い値です。



現時点では、ネオニコチノイド系農薬は、健康被害の点では特別問題視しなればならない農薬だとは考えられません。